

# 1歳6カ月児の言語習得からみた母子相互作用（予報）

畠山 富而（総合花巻病院小児科）

中山 孝之（総合花巻病院小児科）

## 1 研究目的

母子相互作用が言語習得におよぼす影響について、主として養育者との対応状況、遊びの内容（オモチャ、絵本など）を時間的関連から追究する。

## 2 研究方法

### 1) 縦断的研究

岩手県石鳥谷（都市近郊）の第1子、乳児26名を対象に生後1カ月齢より18カ月齢まで、その発育と母子相互作用、主養育者との対応状況、遊びの内容を縦断的に追跡し、言語習得との関係を検討する。その方法と内容は、生後1カ月齢よりあらかじめ用意しておいた調査用紙を用い、1カ月ごとに筆者が児の健康診査を行い、同時に調査内容を保健婦の協力を得て記入する。主なるものは（表1）、家の職業、共稼ぎの有無、主養育者、栄養法、哺乳の状況と母子相互の関係、哺乳後の母子の遊び時間、その他の対応者との遊び時間、離乳状況時の母子相互関係、月齢とオモチャの種類、絵本との関係、習癖の有無、生後10カ月齢頃からは語彙の種類と数の確認（これには、田口恒夫、笹沼澄子著「ことばのテストえほん、一言語障害児の選別検査法」を参考として使用）をした。

さらに、おのおのの児については、各月の中間日に主養育者により保健婦の協力を得て同様の調査項目の記入を行なった。なお、2カ月ごとに健康診査会場において、主養育者と児との関係（哺乳、遊びなど）を写真に撮り相互関係の参考とした。

### 2) 横断的研究

石鳥谷町と同県、山間の町、安代町の2つの町の18カ月齢、第1子、前町、男児91名、女児136名、後町、男児93名、女児91名を対象に、その時点における言語習得状況を縦断的研究と同じ調査用紙を用いて行い、語彙数と調査項目の相関については、重回帰分析を行った。

## 3 研究経過および結果

### 1) 縦断的研究

(1)対象児数の変更、研究計画では40名の予定であったが、調査時間に無理があり、また、途中3名の欠落もあり現在26名の追跡が行なわれている。2月（昭和60年）現在、調査終了者6名である。

(2)各項目の集計は語彙数を除き、月齢記載は、月1回とし平均にて表わした。

(3)最終的には、各調査項目を整理し、重回帰分析により言語習得に及ぼす母子相互作用の意義を確認したい。

### 2) 横断的研究

(1)重回帰分析の結果、安代町、男児の例を示すと、表2のごとく寄与率0.3849と低いが（調査項目の整理が必要）、語彙数習得に影響を及ぼす要因としては、大きさの順では、1位 共働き、2位 遊びの内容、3位 主養育者であり、いずれも母親を中心とした項目が重要であることを示していた。小さいものでは、発育・栄養であった。これを語彙数習得との関連にて、この強さで見ると、プラス要因としては、1位 人・動物・乗物などの絵本、2位 人形・ぬいぐるみ、3位 主養育者。マイナス要因としては、1位 一人水遊び、2位 くせ、などが認められた。この傾向は、安代町女児、石鳥谷町男女児についても同様であった。

(2)語彙数と遊び相手と時間との関係調査では、表3のごとく、安代町；男児の語彙数9.3、女児12.5、石鳥谷町；男児12.1、女児14.6であった。さらに両町について語彙数5以下の男女児、16以上の男女児（ただし石鳥谷町の女児は20以上）を表4に示すと、両町とも5以下の群は16以上の群に比して、母親との遊び時間約 $\frac{1}{2}$ であり、逆に一人遊び時間は2~3倍長く、テレビを見る時間も約2倍も多いことが示されている。

以上、途中経過であるが、縦断的研究、横断的研究の総括により研究目的を明らかにしてゆきたい。

重回帰分析については、岩手医科大学口腔衛生学講座、飯島洋一助教授の御援助をいただいた。

表1 調査項目

---

語彙数（男女別）
栄養法（生後6カ月まで）
共働き　　母の職業
主養育者
相手（遊んだ人）と時間
一人遊び時間
テレビ時間
遊びの内容（人形・ぬいぐるみ・自動車・ブロック・ 水遊びなど） （絵本一人・動物・乗物） （外遊び　　）
く　せ（習癖行動）
哺乳ビンの使用
ことばの内容（擬態・父母・家族・食品・あいさつ・ 身体部分・オモチャ・動植物名・動詞・ 場所など）
身体発育（大・中・小）

---



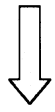
表3 18カ月児 語彙習得数

項目 調査地域	性別	調査人員	語彙数		
			M	±	SD
安代町	男	93	9.3		6.6
	女	91	12.5		7.3
石鳥谷町	男	91	12.1		6.8
	女	136	14.6		6.9

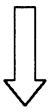
表4 語彙数と遊び相手と時間(主なるもの)

町名	語彙数	性別	調査人員	母親(分)		祖母(分)		一人遊び(分)		テレビ(分)	
				人員	M ±SD	人員	M ±SD	人員	M ±SD	人員	M ±SD
安代町	0~5	男	34	27	76.7 32.6	15	126.0 34.4	28	151.1 34.5	33	100.0 35.7
		女	17	17	58.2 29.0	12	130.0 50.0	16	163.1 56.9	16	90.0 29.0
	16以上	男	16	15	208.0 66.6	9	140.0 60.0	8	63.8 10.6	14	45.0 15.6
		女	32	31	151.0 68.6	19	127.9 60.7	22	81.8 43.6	31	53.2 18.5
石鳥谷町	0~5	男	15	12	76.7 35.5	10	126.0 67.5	8	191.3 102.6	13	100.0 39.2
		女	13	10	54.0 46.5	9	96.7 36.1	12	205.0 61.1	12	76.2 23.3
	16以上	男	28	26	190.8 79.5	15	152.0 89.6	20	73.5 33.0	21	54.3 26.2
		*女	19	19	213.2 91.6	12	167.5 88.1	6	50.0 15.5	14	42.9 15.4

\*20以上



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



#### 1 研究目的

母子相互作用が言語習得におよぼす影響について、主として養育者との対応状況、遊びの内容(おもちゃ、絵本など)を時間的関連から追究する。